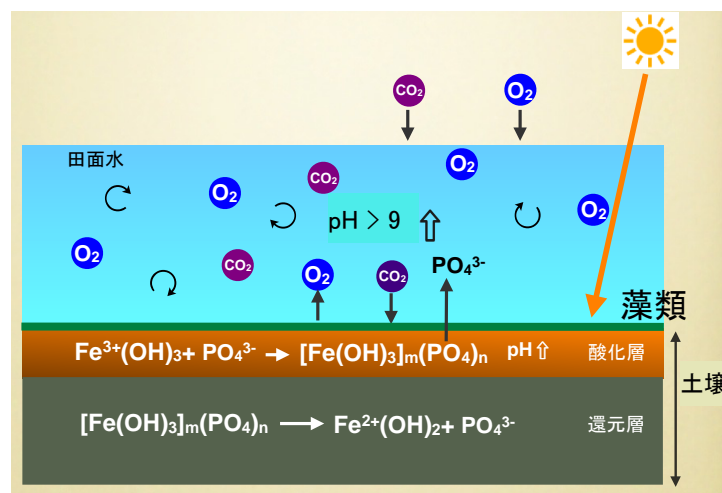


受験生の皆さんへ

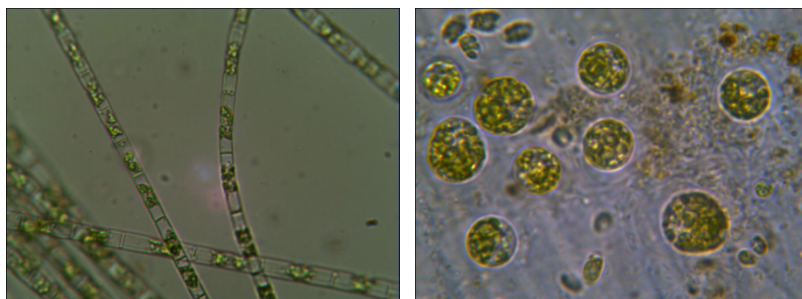
『水田からのリン回収に関する研究』

山形大学農学部水土環境科学コース

准教授 花山 奨 (HANAYAMA, Susumu)



土壌から田面水へのリン溶出の仕組み



主役の藻類(ともに緑藻類(左は400倍、右は1000倍))

内容;リンは人間活動になくてはならない物質です。そのリン資源が枯渇の危機にあることをご存知ですか。リンの生産量は2030年頃にピークとなりその後減少が予測されています。日本はほぼ全量を輸入に頼っているため、リン資源を有効に利用する技術を開発する必要があります。

現在、日本の水田の半分で稲が生育するのに必要な量以上のリンが土に蓄えられています。つまり、この蓄えられているリンを有効利用すればリン資源の節約に大きく貢献すると考えられます。

水田では藻類が土壌表面に繁殖します。この藻類の光合成によって日中田面水のpHが9以上になると土壌から田面水にリンが溶出します。この水田における藻類を利用して土壌から田面水に溶出したリンを回収して再利用することをめざしています。

専門分野: 農業農村工学

連絡先: 0235-28-2841

e-mail: hanayama@tr.yamagata-u.ac.jp

